

WACATE マガジン Magazine Vol.42

🍀ご挨拶🍀

WACATE-Magazine をご覧の皆様、こんにちは。
WACATE-Magazine 編集部です。



いやー。「残暑」ですね。

今年は7月が涼しかった分、
まだまだ暑さが残っていますねー。
たまに朝晩は涼しい日がありますが、
おなかを出して寝たりして風邪をひかないように
気をつけてくださいね♪

なんと今回はたくさんの投稿が！
WACATE 2012 夏のBPP 賞受賞者の熱い記事や
BFP 賞受賞者の投稿など、フレッシュな記事が盛り
だくさんです！

こちらもまだまだ熱冷めやらぬ！
WACATE-Magazine vol.42、
はじまるよー！

🍀お品書き🍀

【特集1】

WACATE2012 夏
★ときめき★参加者 Report！

【投稿戦士1】

WACATE2012 夏 BPP 受賞者レポート！

【投稿戦士2】

WACATE2012 夏 TEF 東海振り返りレポート！

【投稿戦士3】

仕事術コンテストレポート！

【特集2】

JaSST' 12 Shikoku レポート

【雑談すべしゃる】

てすバナ語るっcha!

【リレーコラム】

Software Test Topics

【連載】

源太郎のソフトウェアテスト占い

【連載】

今月のSTAR☆

【あとがき】

🍀WACATE Topics🍀

WACATE2012 冬 12/15,16 にて開催決定！
実行委員キックオフ実施！

次回てすバナ

10/13(土) 22:00 開始！

— WACATE2012 夏 —

☆と・き・め・き☆参加者 Reportだよ!

前は実行委員によるレポートだったのですが、今回は参加者であり編集部でもあるメンバーで参加者目線でのレポートをお届けします！
「参加者は実際どう感じるのかな？」
といった部分をお見せすることができれば幸いです♪

ではさっそく行ってみましょー♪

<前夜祭>

今回は新人さん2名を向かえて、10人で行う前夜祭となりました。時々様子を見に来ていた実行委員（雑用係?）の方も一緒に、かんぱーい♪



WACATE に前日入りしている参加者が進行していく前夜祭は、初めましての新人さんの紹介や最近のお仕事についてのお話、明日に控えた WACATE の予習について等、飲み物を飲みながら思い思いに語る前哨戦です。

みんなイイ感じにお酒や会話で酔いながら、テストの話で盛り上がる盛り上がるw

明日から WACATE が始まるというのに、前夜祭が終わる頃には日付が変わっていることも度々です。

WACATE 初参加の方達から「WACATE の魅力って何?」と問いが出て、自分にとって最大の魅力は「何でも試して失敗できること」だと答えました。2日間の合宿中に初対面の方達も含めてチームを形成し、一丸となって課題に挑戦する。また若手はリーダー役となるので貴重な経験を得る機会となるのではないのでしょうか? そして大抵はチームワークが思い通りに動かず反省点が色々出てくるのですが、その反省点こそが現場に戻ってから役立つことが多いのです。

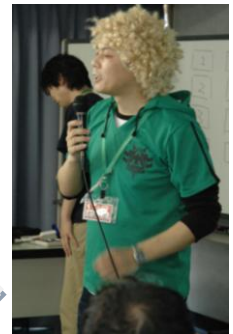
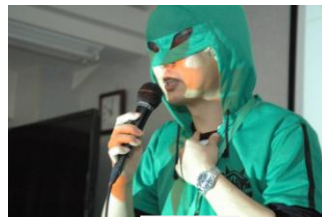
<WACATE1 日目>

■オープニング

「ようこそ WACATE2012 夏へ!」

川西俊之さん

開会式では実行委員長が会場の後ろから、緑のパーカーを被った姿で掛け出てきて、徐にパーカーを脱ぐとそこにアフロがっ!w



【被り物 on the 被り物】とは、流石です! マイクを持っておっしゃった言葉は、「変な人じゃないので冷たい目でみないで~」w

ということで、アイスブレイクの後にはまじめに今回で10回目を向かえる WACATE についてのお話をされて進行の川西さんにバトンタッチ!



「WACATE 参加時にはいつも1番を取り続けていたら、いつの間にか実行委員になっていた」という川西さん。

何でも一番は気持ちいいですよ。一番を取り続けると実行委員になれるかも? 知れないそうです♪

■セッション1

「ポジションペーパーセッション」

中野さやかさん



続いて2008年から6回の参加を経て、実行委員となった中野さん進行による、ポジションペーパーセッションです。

参加者によっては明日選ばれるポジペ賞の受賞を狙った力作もあつたり、一見抽象的なポジペでも説明を聞くと納得の内容だったりするので毎回このセッションは楽しみです。

一通り自己紹介が終わると、席替えをして2回目のポジベタイムですw
この2回目のグループが、ワークショップで一緒に行動するチームになります。
1回目とは違うメンバーで、リトライ！
程よく緊張も解けてイイ感じでウォーミングアップも完了です♪

■BPPセッション

「WACATE365 日徹底活用術」～組み合わせで一歩前へ、そして世界へ～

藤崎祐美子さん



前回ベストポジションペーパー賞を受賞した藤崎氏による、WACATEとの出会いからこれまで成長を紹介したセッションです。3つのポイントについて紹介していました。

1、みんなの力を組合せて加速

2、気付く、考える、発信する

3、世界へ視野を広げてみよう

普段からツイッター等による情報発信や、そこから生まれたチャンスを取りこぼさない積極性とコミュニケーション、業務上の工夫やテスト技法を身につける継続的な努力に論文等からの情報収集など、確かに普段からこの3つのポイントを実践しているよなあと納得の発表内容でした。

まずはいろんなことに気づいてみて、考えてみる。ただ考えるだけではなくて、その考えや想いをTwitterやSNSやブログ等の媒体を解して発信してみると誰かが何がしかの反応を返してくれます。自分の頭の中だけに留めては勿体ないのです。返ってきた反応を見てさらにもっと考えてみる…そんなサイクルを繰り返して、ふと後ろを振り返ってみると、少し前に比べてだいぶ加速して先に進んでいることに気づくことができるのかもしれないですね。

とても素敵な発表でした♪

●お昼休み



1日目のお昼は海鮮丼とつくね丼の選択式。海鮮がちょっと苦手な人にも優しいメニューとなっています。が、どちらになるかは早い者順！お昼になると急ぐ参加者多数ですw

またお昼休みには恒例のManiaXが購入可能に！年2回のコミケとWACATEぐらいしか頒布していないManiaX♪お昼ごはんを食べたら急いで購入です。

お腹も満たされて、いざ午後の部へ♪

■セッション3

「組合せテスト設計はじめての一步」

井芹洋輝さん



井芹氏による組合せテストの基礎に関するセッションで、組合せテストを普段使っていない人にも分かるように、ラーメンを注文する際の組合せを題材にした説明が分かりやすかったです。説明ではラーメンの注文を「スープ」「トッピング」「麺の太さ」「麺の固さ」「サイドメニュー」の5つを組合せて行う場合を取り上げて、以下のような組合せ特有の不具合や注意点について説明していました。

- ・全組合せを注文する(食べる)のは無理がある
- ・「激辛スープ」、「激辛具材」、「激辛麺」の組合せだと、辛すぎて食べられないかもしれない
- ・サイドメニューは他の注文からの影響を受けない(直交している)
- ・肉抜きチャーシュー麺など、実現不可能な組合せの注文がある

考え始めると店毎の注文方法の違いや地域のルールなど、組合せテストとラーメンの話がいくらでも膨らみそうな内容で、こんな説明の方法もあるんだなあと感心させられました。

某復習会でも、有則・無則・禁則についてどう理解したらよいかについては議論になりましたが、組み合わせの結果(目的、定義)によってこの有則・無則・禁則の捉え方は変わってくるのでは?と思いました。

博多ラーメンならバリカタ細麺がデフォルト! 柔らかい麺は認めんばい! という話であれば、豚骨スープ×柔らかい麺は禁則として扱うのか? と発散してみたりして、WACATE 以降の復習会でも楽しませていただいた、面白い例題でした♪

■セッション4

「組合せテスト技法はじめての一步ーディシジョンテーブル、ペアワイズ、直交表の第一歩」

近江久美子さん



近江氏による、ディシジョンテーブル、ペアワイズ、直交表についての紹介です。本来ならどの技法を取っても使い方を覚えるだけで数時間はかかる内容を1セッション内で行うハードルの高いもので、**予習の大切さ**を思い知らされる内容でした。合宿開始前から積極的に学ぶ姿勢が重視される、WACATE ならではの辛口セッションと言えるでしょう。

私自身は設計等で複雑な項目が数多い時に、ディシジョンテーブルを書いて考えを整理したりする時に使っていましたが、直交表やペアワイズはテスト業務で使用経験がなかったので、それぞれにどんないいトコ悪いトコがあるのか改めて学習する良い機会になりました。この後に続くワークショップにとてもわくわくしながら聞き入っていました。

■セッション5

「実践! 組合せテスト設計」

井芹洋輝さん

とあるツールについて組み合わせテストを考えてみるミニワーク♪

渡された資料を基にディシジョンテーブルをまずは書いてみる。そして余裕のある人はもう少し複雑な条件を追加してみてどんなディシジョンテーブルが出来上がるかをまずは実施してみました。



そしてさらに時間がある人は別の問題に挑戦！とある仕様を確認する組み合わせをペアワイズが直交表を使ってみるというものでした。

このワーク中に松尾谷先生から差し入れのスイーツが登場♪頭を動かすのに必要な糖分を摂取してやる気をチャージっ！！



スイーツに夢中になりすぎ、スプーンをくわえたままワークに挑んだのですが、ディシジョンテーブルを作成するところでタイムアップしてしまいました。Orz

個人でワーク終了後に、各グループの中で答え合わせをしたのですが、人によって描き方が異なり、書きやすさの気づきがありました。ディシジョンテーブルでは○×で描く人もいれば、Y/Nで表す人もいたり、黄色・青色・銀色などの文字で直接テーブルを埋める人もいました。複雑な条件の場合は○×やY/Nではなく、直接結果を文字で入れてしまう方がわかりやすいなど感じました。考え方を取り込んで、個人がそれぞれに工夫したテーブルがたくさんありました。

■イブニングセッション 「良いテストをするための手法と習慣」 加瀬正樹さん



加瀬氏によるテストの改善に関するセッションです。テスト目的に対して適切なテスト技法及びテスト条件を選択している状態を「良いテスト」と考え、その状態に至る様に現在の状態を見直しに行く習慣についての発表でした。

セッション中ではラルフチャートを使ってテスト条件やテスト技法を見直す方法について紹介があり、普段使っていない技法なので興味を持って聞くことが出来ました。

まずはよく分析をしてみて、適用してみる。そして常に見直す習慣をつける。見直すには時間がかかったり手間がかかったりして、なかなか面倒くさがって等閑になりやすいですが、その一手間を加えることが、良いテストへの近道にはとても大事なのだと改めて感じました。

何事も喉もと過ぎれば…になってしまうのはいけないのですよね。

テストに限らず小さなことから見直す習慣を改めてつけて行きたいなと思いました。

■招待講演 ICST2012 組み合わせテストワークショップに参加して 辰巳敬三氏



辰巳氏による、海外で開催されたワークショップへの参加体験談です。私から見ると海外と聞いただけで参加のハードルが高いのですが、辰巳氏の答えは至ってシンプルで「**テストが好きだから**」の一言でした。海外の人達とテストの話が出来るのが楽しい。テストの著名人と直接会えるのが楽しい。普段メールでやりとりしている人達に会えるのが楽しい。と本当に楽しそうに話していて、ここまで自信を持って「好き」と言える対象を持っていることの強さが眩しかったです。自分自身、まだまだ精進が足りないなあと初心を思い出した発表でした。

●ワークショップ1日目の見守り隊♪

実は私たちがワークに黙々と打ち込んでいる間、会場の後ろの方から、優しい視線で見守っていたゲストがっ！

今回のセッションで参考文献になっていたソフトウェアテスト技法ドリルの著者である秋山さんが当日いらっしゃいました。



1日目を終え、参加者の皆さんに向けて、暖かいメッセージを送って頂きました。
WACATE では時々こうして先輩方が遊びに来ていただけるので、休み時間にサインをおねだりしてみたり、直接お話するのも楽しみの一つですね♪

■ディナーセッション



昼間のセッションも一段落して温泉でリフレッシュした後は、宴会場で夕食とディナーセッションの始まりです。お酒と食事を楽しみながらの語らひはお互いの距離感をグッと縮めて話も弾みます。そうして暫く歓談を楽しんだ後は、WACATE 恒例の実行委員によるディナーショーの始まりです。

今回はたかすとさあやのオールナイトニッポン！と題して、実行委員長の上野さんと実行委員の中野さんが艶やかな浴衣姿で登場♪
ワークショップをきりりっと進めながらも、こういう息抜きセッションもきちっとやりきる実行委員長、素敵です！流石☆

毎回恒例になっている参加者アンケートをもとに展開される生ラジオ番組のような楽しいセッションは笑いあり、笑いあり、笑いあり！ですw

実行委員達は夏らしく浴衣姿に装いを改め、しかもそこから盆踊りならぬ軽快なダンスを披露するサービス精神が素晴らしかったです。踊りの他

にも参加者の一言を紹介するコーナーやメディアサポーター等からのプレゼント抽選大会など、終始賑やかなディナーセッションでした。

次は議論白熱する夜の分科会♪

■夜の分科会

探索的テストや仕事術などのテーマから興味のあるテーマを選んで自由に語り合います。



○みんなの仕事術！

Twitter のつぶやきから端を発した、みんなのお仕事術を聞いてみよう！話してみようのコーナーです！実は本会が WACATE 終了後の 7 月 14 日に開催されたのですが、そのプレ会ということで、本会に参加できない遠方の方のお話もいろいろ伺いました。

模造紙にマインドマップを書き出しながら、いろんな方法論を議論しあう参加者たち。自分にあった仕事術を探してみようと、メモを取ったりして悩みを打ち明けたりとかなり盛り上がっていましたね。

○バグ票ワーストプラクティス！

私が選んだのは「バグレポート」、バグの報告の仕方によっては作業効率が大きく変わる、テスト技術者と開発者とのコミュニケーションについて大いに話が盛り上がりました。

<WACATE2 日目>

■ワークショップ(午前)

「やってみよう！組合せテスト」

上田卓由さん

1日目のセッションで組み合わせテストの基礎固めをし、ミニワークで肩を温めたところで、いよいよワークショップの本番となります。今回はスマートフォンを使ったサーバー/クライアント型構成の「ついでに買ってきてサービス」がお題になっていました。

予め提示されている試験観点から組み合わせテストの設計作業を実施し、最後に成果物を班ごとに発表します。

今回は普段スマホアプリ開発を業務で行っている先輩エンジニアから、サーバー/クライアント型の通信ではこういう観点があるんだよねー等の経験談を聞いてみたり、スマホのバージョン違いによるテストの苦労話(?)から試験項目を考えてみたりしました。

意外と普段の業務経験がワークショップで活かされることもあり、いろんなドメインの参加者が交わるワークショップは貴重な経験が聴ける宝庫ですね！

またチームでのテスト設計ワークショップですので、システムに対する理解やどうテスト設計するか**合意を取りながら進める必要があります**。その為には自分の考えを伝えたり、逆に相手の意見を引き出したりしてチームの方向性を決めていくことが重要となります。実際にワークを行うと、知識も業務も異なるメンバー同士ですから合意を取る部分が難しく、白熱して全員立ち上がりながらポストイットやマインドマップなどを使って意見の発散や集約を行い、試行錯誤しながらチームの成果物を作り上げて行きます。WACATE において最も盛り上がる瞬間でした。



ワーク中、2日目の先輩ゲストとして遊びに来てくださった細川さんが各班をまわっては見守ります。見守りながらも突撃インタビュー！w
「今どんな話をしてるのかな？なるほど、それじゃあ皆で意識を合わせて、エントリーポイントについて考えてみるといいよ！」「どんなテストをするにしても、そのテストを実施した場合に大体どれだけかかるのか総件数を出してみないと気持ち悪いよね？」等のありがたいアドバイスを所々でいただきました！

そのアドバイスをもとにして、方針や方向性についてもう一度考えてみたりと参加者の加速度が上がっていきます。

実際、私のいた班ではこの総件数を出してみても、組み合わせテストではコレくらいの件数に絞ることができるんです！という成果を話せるようになりました。

確かに効率的にテストしたいのであれば、その効果を言えないと納得できないですね。

先輩のアドバイスはすごいですね！感謝です！お昼休みを挟んでワークは続きます。

●お昼休み

2日目のお昼ご飯は、定番となったカレーバイキング！これを楽しみにしている参加者も多いはずです。

お腹いっぱい満たされたら、午後のワーク発表に向けて、再度気合を入れなおします！

■ワークショップ(午後)

午後の発表に向けて各班ラストスパートをかけていきます！

模造紙に成果を書き込んだり、絵を描いて図解できるようにしている班があったり、パワポを駆使して成果物を作ったり、いろんな特色が見られて面白かったです。



今回は1班から順に8班まで発表をしていきました。仕様書から因子や水準を付箋で洗い出している班が多かったように見えました。

利用した技法では Pairwise が圧倒的に多く、FL表と描いてみた班もありました。

セッションで習った PictMaster ツールを使って組み合わせを整理したりしている所もいくつかありましたね。

因子と水準を洗い出すのに時間がかかり、時間がたりなかったという班が多かったです。

各班の発表が終わったところで、今回はこの後のセッションで講師を務めて頂く鶴巻氏からの講評がありました。

■クロージングセッション

「組み合わせテストツール「PictMaster」の開発とその背景」

鶴巻敏郎氏



テスト担当になってから組合せテストに興味を持ち、組合せテストツールを探す内に PICT の存在を知ります。そこから PICT をより使いやすくなるよう Excel で活用シートを作成することで、高度な機能を簡単に扱えるようになりました。まだ詳しく解説していなかった時代に、いち早く目をつけて記事提案をした鶴巻氏の発信する力がこの後続く PictMaster 開発への大きな道への第一歩となりました。

ポジションペーパーセッションでも藤崎さんがおっしゃっていましたが、ただ考えるだけではなくまずは発信することで大きな流れが生まれることを、鶴巻氏も体现されているようです。

私が関心あったのはこれだけ使いやすくて高機能なツールを無償で提供している点だったのですが、この点について鶴巻氏が「**テスト技術の向上に寄与したい**」「**クローズドなツールの現状を変えたい**」「**ソフトウェア規模が小さい**」「**有償では使ってもらえない**」と想いを語られて、深い考えがあつての決断だったのだと感謝の念を新たにしました。

その後も「組合せテストのこれから」でテストケース数を抑えた 3-way 以上のカバレッジ向上の話や、「皆さんに期待すること」で組合せテストの現場導入へ向けたメッセージなど、将来に向けたメッセージを聞くことが出来ました。

先輩方もまずは何でもいいから発信してみるところから始まっているですから、声に出してみる・書き表してみることはとても大切なのだと思いました。

■クロージング

「二日間の終わりに」

澤田 悠介さん



WACATE 恒例の二日間を振り返る動画をみんなで見ながら、楽しい思い出に浸りました。参加者のみなさんがワークをしている最中、実行委員に激写された写真は真剣そのものでしたね。

あっという間の WACATE で、クロージングの挨拶と共にこの二日間を写真で振り返ると、その密度の濃さに感慨にふけてしまいました。

また参加者の投票などで決まるポジションペーパー各賞の発表が行われました。受賞したポジペの内容はどれも納得の出来映えでしたが、**3つの賞すべてを女性参加者が受賞**していましたので、男性陣も頑張れ〜と受賞経験者の私は思わずにはいられませんでした。

■後夜祭

WACATE 終了後は横浜で有志による後夜祭です。ワークショップの感想や反省点、ポジペ受賞結果の分析と次回への受賞に向けた作戦会議、WACATE 復習会の話が立ち上がりたり今後の抱負を話し合ったりと、2日間のワークショップを一緒に過ごしてきた同士の盛り上がりは冷めることなく次回へと続いていくのでした。

■WACATE 関係者を振り返って

参加者全員分のケーキを差し入れてくれた松尾谷氏、ワークショップ中に多くの気付きを引き出してくれた細川氏、テストに対する真摯な姿勢を見せてくれた辰巳氏、組合せテストツールの普及への道程を示してくれた鶴巻氏、そして毎回 WACATE を開催し盛り上げてくれた実行委員の皆さんと参加者達、全ての関係者に感謝を捧げます。

(WACATE-Magazine 編集部)

WACATE2012 夏 BPP受賞者レポート!

島山 さつき

WACATE2012 夏に参加されたみなさん、お久しぶりです！参加されなかったみなさん、初めました！今回、初参加にしてBPP賞をいただきました、島山さつきと申します。メイと呼んでください。世界へ羽ばたけ！の意味も込めて。さつき…皐月…5月…May……

小さなソフトウェア会社に在籍し、いわゆる協力会社という形で客先に常駐をしてお仕事をしています。これまで漠然とテストチームの一員として業務をこなしてきましたが、それを払拭すべくWACATEの世界に飛び込みました。QTP、Seleniumを使ったテストの自動化に携わった後、今は組込み系の開発現場で評価項目の作成をしています。

— 初WACATEは「息つく暇もない」 —

WACATEの感想をひと言で表すと息つく暇もない充実の時間でした。10分ほど前に会場入りし、打上げが終わるまで、内容が盛りだくさんなうえ、このビックチャンスを生かさねばとたくさんの方と交流しました。

会場入りからワクワクしっぱなしだった私は、ポジセッションでテンションが更に上がり、初心者でも分かるような言葉で進むハイレベルな講義に感動し、おぼつかない姿を見せてしまったワークでは同じ班の先輩方がしっかりとフォローしてくださり、また、いろいろな知識を共有してもらって頭が追いつかないくらいたくさんの知識を得ることができました。世界で活躍する方々のお話も聞くことができ、濃すぎるほどの素晴らしい内容でした。

ただ、大変恐縮だったのは、JaSSTにも参加したことがなく、TEFはページを開いて引き返してきたことがあるぐらいのレベルだったので、実行委員や講師の皆さん、参加された皆さんの錚々たるメンバーの名前を聞いてもさっぱり分からず…ただただミーハーに声をかけてしまったことでした。申し訳ありません。4名の執筆者からのサインをいただいたソフトウェアテストPRESS総集編は、我が家のお宝本となりました。

お昼のバイキングでは組み合わせを考え、日ごろの疑問を有識者に質問攻めし、夜は寝る間を惜しんで語り合い、帰りの電車の中もずーっと話続け、とにかく大満足な2日間でした。

— WACATEで得たもの —

「息つく暇もない」スピード感
ソフトウェアテストに関する知識
プレゼンや教える能力の大切さ
一歩踏み出すことの大切さと、
一歩踏み出すことのハードルの低さ
そして、仲間！

仲間と出会うことができ、たくさんの後押しがあって、WACATEが終わってからの2ヶ月でこんなことがありました。

- ☆ テスト自動化研究会への参加
- ☆ PPT作って自社で報告
- ☆ ドリル本の読書会で簡単なプレゼン
- ☆ ラーメンラルフチャートを描いてもらった
- ☆ モバイル端末への興味がUP
- ☆ フルーツをたらふく食べた
- ☆ Gihyo.jpにレポートを寄稿
- ☆ Sgipという団体を知った
- ☆ 業務でのラルフチャートの活用
- ☆ コミケや同人誌への誤解が解けた
- ☆ マインドマップを書いてみた
- ☆ WACATE2012夏スタートの同期会開催
- ☆ 初めて海外サイトで通販
- ☆ テスト設計コンテストに向けてチーム発足
- ☆ SkypeIDの取得
- ☆ TEFに登録（予定）

勇猛果敢に世の中を歩いてきたつもりでしたが、まだまだひよっこでした。

これからもっと加速します！！

— BPP賞ありがとうございました！ —

初めてのWACATE参加で勿論ポジションペーパーの執筆も初めてでした。お披露目できるたいした知識もなかったのに、「立場表明書」という言葉どおりのポジペを作成しました。その裏には「ソフトウェアテストの勉強をしたい！」「自分の人生を切り開きたい！」という熱い思いがありました。熱意だけで書き上げたと言っても過言ではありません。BPP賞を狙っている皆さん、参考にしてみてください（笑）

そのポジペでBPP賞をもらえたというのはとても光栄でしたし、票を入れてくださった方々は、私を応援しているのだと想い、胸が熱くなりました。その応援に応えられるよう、邁進していきます！これからもどうぞ、よろしくお願ひします。

WACATE2012夏復習会

投稿戦士! @東海レポート

江崎 由華 (TEF 東海)

■概要

去る7月29日(日)、刈谷市の中央生涯学習センターでWACATE2012夏復習会@東海が開催されました!

この日は、今年一番ではないかと思う程の酷暑でしたが、さらにアツい(暑苦しい?)面々がそろいました。

ぐるぐるY(やったこと)W(わかったこと)T(つぎやること)で振り返りました。

■セッション1

「ポジションペーパーセッション」

Y

- ・ 探索的テストをアツく語った
- ・ 今の野望を語った
- ・ 成長と活動の関係をまとめてみた

W

- ・ 俺にはフレッシュさが足りない



- ・ が狙いすぎていて投票できなかった
- ・ 3分で語るには、情報圧縮が必要
- ・ 携帯業界の人は大変だ

T

- ・ 自分が言いたい事を1枚で説明できるようにしたい
- ・ 次回こそは…



: 狙い過ぎはだめだけど、「次回こそは…」って難しいですね



: フレッシュな加速感が必要ですね
でも、賞味期限が短いなあ

ポジションペーパーセッションでは、どんな些細な悩みでも真剣に聞いてくださって、笑い話には笑ってもらえる、そんなWACATEの雰囲気が一番に思い出しました。若手向けのワークショップと位置づけているだけあって、手を広げて迎え入れてくださっている感じでした。

また、「ポジペ3賞のメンバーは皆面白い。素直にアツい内容を書いていた。」との話もあがり、ポジペ3賞の1つを頂いた身としては、恐縮しっぱなしでした。

■BPPセッション

『WACATE365日徹底活用術』

組み合わせて一歩前へ、そして世界へ」

Y

(本セッションは「やったこと」がないので省略)

W

- ・ 加速した過程が「楽しそう!」な感じが良い
- ・ 「最初の一步を踏み出す」が大切だけど、そこに躊躇する様子がないのがスゴイ
- ・ 学習と発信、挑戦が大事

T

- ・ 周りを加速させる。
- ・ 世界に目を向ける
- ・ 興味やできることを少しずつ発信する



: 周りを加速させるために、WACATEに誘ってみる!



: まずはやるまいか!

W(わかったこと)にあるとおり、社内、社外共にレベルの高い活動っぷり。この辺の加速の大きさがBPPに繋がったのではないかと、という結論になりました。

私は藤崎さんの「良いところを見つけたら、すぐに『それいい』と伝えてあげることが大切」というのに感銘を受けました。

「世界に目を向ける」というお話から、「英語力のなさを言い訳にははいけない」という意見もあがりました。私も英語ができないと言い訳する事が多いので、「やろまいか!」精神でがんばろうと思います。

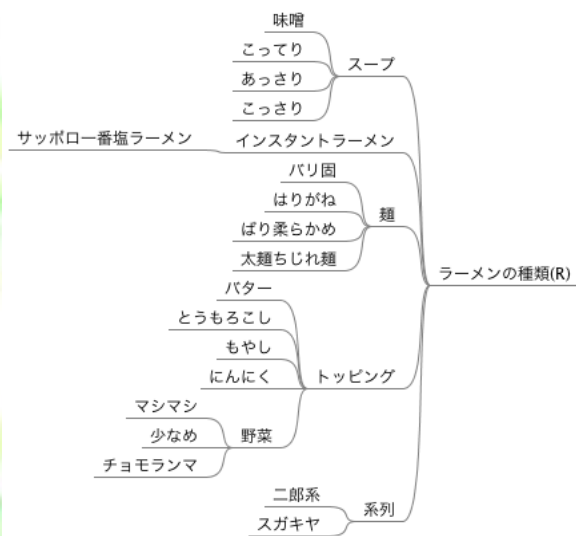
■セッション2

「組み合わせテスト設計ははじめの一步」

講演はY(やったこと)がないので、ここからは1ジャンル足していく事に。

セッション2はR(ラーメンの種類)で!

R(ラーメンの種類)



- ・ デシジョンテーブル、直交表、ペアワイズを初めて実践した
- ・ ポンチ図を書いてみた

W

- ・ デシジョンテーブルは有則が対象
- ・ 無即と有即を同時に考えない方が良い
- ・ みんなで同じ問題に取り組むと、いろいろな発見がある

T

- ・ 探索的テストと、組み合わせテストそれぞれのノウハウを組み合わせる



：差し入れにケーキをいただきました。おいしかった。



：有則のテストでさえも、全部で来ていなかった。無則は考慮外だったと思う。

セッション3では、ゲストの方から差し入れにケーキをいただき、それをつまみながらのワークでした。甘いものを食べると、俄然やる気ができました！

セッション2も含め、有則と無則、禁則についてしっかりと考えさせられました。正直なところを言ってしまうと、「有則」という単語自体を意識した事がなく、デシジョンテーブルという技法は何にでも使う事ができると思い込んでいました。有則、無則、禁則の概念が、社内では欠如していることが、WACATEに参加した私の一番の気づきです。

W

- ・ 組み合わせの例をラーメンなど身近なもの
- ・ で説明できるといいね
- ・ 有則、無則を意識的に明確にする必要があり、
- ・ テスト分析が大事
- ・ WACATEメンバーに禁則の組み合わせはない

T

- ・ 有則、無則などの一般用語を社内でも使えるようになる
- ・ 有則と無則を上手に分類する方法を考える



：ラーメンはテスト設計を学ぶにはとてもわかりやすい題材



：いきなり技法に走ってはいけない

ラーメンの種類は説明するよりも、成果物を出した方がおもしろいと判断して、そのまま掲載いたしました。想定通り、一番発散しています。

「麺」の種類、はまだわかりやすい方なのですが、「インスタントラーメン」や「系列」が出てきてしまい、『じゃあスガキヤ（東海地方にあるラーメンチェーン店）が発売しているインスタントラーメンはどうなるの？』など、考えだしたらキリがないなあと思いました。でも、このような事を考えるのがテスト設計であり、初心者にも取っ付きやすい題材だと思いました。

■セッション3

「組み合わせテスト設計ははじめの一歩 -デシジョンテーブル、ペアワイズ、直交表-」

Y

- ・ まずは因子、水準を洗い出す

■イブニングセッション

「良いテストをするための手法と習慣」

K (加瀬さんのイケテイルところ)

- ・ イケメン
- ・ 数学的に良いテストをするための2軸の説明
- ・ 知識が豊富で、紹介が上手すぎる

W

- ・ 2軸の考え方により、「自分がどうあるべきか」を考えるきっかけとなった
- ・ ラルフチャートの具体例を聞く事ができた

T

- ・ ラルフチャートを導入したい
- ・ テスト全体を見て、どの部分に技法を使うかトレーニングする。



：加瀬さんの話し方はわかりやすいだけでなく、聞きやすく安心しますね！



：ラルフチャートを導入したい

イブニングセッションでは、セッション3で新しい技法を使い、うまくいかなかったことが起因して、「テスト技法はいきなり実践で使おうと思っても、戸惑ってしまい思ったように進まない事が多い。だから無理して新しい技法を使う必要はない。」というのが一番印象に残っています。テスト業界の人は、開発というプロトタイプ(小さい規模で適応してみる)をやらない、という話もありました。自分で使ってみて、初めて獲得できる技なのかもしれません。

■招待講演

「ICST2012 組み合わせテストワークショップに参加して」

T (辰巳さんのいいなと思ったところ)

- ・ テストの歴史を研究している
- ・ TEF に面白い海外情報を展開してくれる
- ・ 若手に向けてのアツイメッセージ！

W

- ・ 英語論文を投稿した方が、世界にアピールできる
- ・ 国際会議の雰囲気が見えてよかった
- ・ 組み合わせテストは日本発祥
- ・ 何事も、やり続けることで世界への道が開ける

T

- ・ ソフトウェアテストマニアックスから読んでみる
- ・ 探索的テストと組み合わせテスト理論を組み合わせる
- ・ とりあえず、どっかの世界カンファレンスに出る



：JaSST Tokyo に登壇→nWCSQ に登壇！

「組み合わせテストは日本発祥」というところから、日本初となるものを広げよう、という話がありました。「WACATE を世界に広げてみたら」という話もありました。これまで、韓国の方が参加された事があるそうですが、WACATE2012 夏に

は1人もいらっしゃいませんでした。オフショアという言葉をよく耳にする今日なので、中国の方がいらっしゃっても、おかしくなさそうなのになあと思いました。

■夜の分科会

「皆で語ってみませんか？」

Y

【KEN 婚相談所】

※KEN 婚相談所：KEN さんによるソフトウェアテスト結婚相談所

- ・ とりあえず悩みをぶちまけました
- 【仕事術のお話】
- ・ タスク管理、ToDo の考え方などについて話した
- 【探索的テストを語る】
- ・ 経験発表ネタをベースに議論

W

【KEN 婚相談所】

- ・ 社内の用語しか知らないと、社外の人との会話が難しい
- 【仕事術のお話】
- ・ タスクの粒度に悩んでいる人が多いとか
- ・ 他の人に役立つように説明を考える事で、自分にも役立つ
- 【探索的テストを語る】
- ・ 定義があやふやで撃沈…
- ・ 体系化できていなかった

T

【KEN 婚相談所】

- ・ テスト自動化をやってみよう
- 【仕事術のお話】
- ・ 東海版仕事コンを開催したい
- ・ 自分の仕事術を振り返ってみよう
- 【探索的テストを語る】
- ・ どこが探索的なのか、ブログにまとめる

約3グループに分けての分科会は、伊達メガネの話など、それぞれ盛り上がっていたようです。私が参加したKEN 婚相談所も、それぞれが抱える悩みをぶつけ、他の仲間にアドバイスをもらいました。私たち若手が抱える悩みは、他の人も過去に同じ悩みを抱えている場合が多いという事を改めて感じました。

■ワークショップ1

「やってみよう！ 組合せテスト」

Y

- ・ 全ての因子、水準を洗い出す
- ・ テスト全体から、有則と無則を考える
- ・ リーダーとして発表してみた

W

- ・ 最初に方針を固めた方が良さそう
- ・ スマホ関連の仕事をしている人の、ドメイン知識があっただけ良かった
- ・ 仕様を A3 用紙 1 枚にまとめた内容が、チームの合意に役立った

T

- ・ ラルフチャートの使い方を勉強する
- ・ テストの戦略、方針レベルで全員の意見を入れてみる
- ・ ドメイン知識に左右されない議論の進め方を考えていきたい



：発言力のある人がいると、議論を中断させてしまう恐れがある



：隠れた因子を疑う

ワークショップでは、チームでのテスト設計ということで、いかに方針を固めるかが重要だったのではないかと思います。私のチームでは、方針固めだけで、ワークの半分ぐらいの時間を閉めていたような気がします。今回の振り返りで、他のチームがどのように（仕様を A3 用紙 1 枚にまとめる、など）方針固めのための工夫をしていたのかわかる事ができてとても良かったです。

■クローージングセッション

「組み合わせテストツール『PictMaster』の開発とその背景」

P(「PictMaster」&鶴巻さんの素敵☆ミなところ)

- ・ たくさんの人に使ってもらいたい！と本気で思っているところ
- ・ PICT を日本に広める事に尽力されているところ
- ・ 情報追加で役立つ内容、なるほどと思う内容が多かった

W

- ・ みんなに使ってもらう事が、自分に取っていい影響を与えること
- ・ 既存のツールの UI を作る事で、非常に使いやすくなるので、UI は重要。

T

- ・ 自分流のテストツールを作る



：探索的テストツールをつくれるといい



：組み合わせテストの使いやすいツールは、いろいろな人が求めているのだな

PictMaster はとてもシンプルな UI になっていて、「Simple is best」という言葉がとても似合うツールです。多くの方がの欲しいとおもう様なツールを「たくさんの人に使ってほしい」という思いから、無料で公開しているところに鶴巻さんのアツい思いを感じました。

■最後に

マサオさんのタイムマネジメントがすばらしく、25 分振り返り:5 分休憩のとても良いリズムで、集中して振り返る事ができました。また、参加者の方々は、WACATE の参加以前から顔見知りのメンバーだったこともあり、和気あいあいとして雰囲気でした。

自分一人で振り返るのではなく、他の人と一緒に振り返る事で、(ワークは特に、)他の人が何を考え、どんな工夫をしたのかをお聞きする事ができてよかったと思いました。自分一人ではなかなか気付けないことが多く、他の人の気づきが自分の気づきにも繋がって、相乗効果が生まれていたように思います。

最後になりましたが、このような会を企画してくださったマサオさん、それぞれ振り返りつつも私の気づきとなるよう心を配ってくださった他参加者の方々、また、つたない文章を読んでくださったマガジン読者の方々、ありがとうございます。

投稿戦士！仕事術コンテスト やってみましたレポート♪

高橋 知子

■はじめに

高橋知子 (@deep_sea_blue) と申します。WACATEとの関わりは 2011 年冬に初参加、2012 年夏が二回目の参加でした。今回、仕事術コンテストを主催者として開催いたしましたので、その様子と所感をみなさまにお伝えしようと思い、こうしてレポート記事を書いている次第です。

■きっかけ

WACATE に参加している人たちって、会社の仕事もこなし、プライベートの予定もいろいろこなし、その上でしれっと何事もなかったかのような顔をしているスーパーマンがとても多いと思います。何しろ、土日に自腹で泊まりで勉強しに来ているのですから。

そんなすごい人たちの仕事術、知りたい。

何かいろんながジェットとか同期させちゃったりしてめっちゃカッコいいことやってんだぜきと。

そんな事を Twitter でつぶやいたところ、じゃあ勉強会開いちゃえば？ と拾ってくださったのが、しんすく (@snsk) さん。あんまり後先考えず、それにとりあえず飛びついてみた、というのがきっかけでした。

■WACATE 夜の分科会

本開催のプレ開催、私の予行演習も兼ねて、分科会を担当してみたら？ というありがたいご提案をいただきまして、これもチャレンジしてみる事としました。ただ、簡単にやってみると言ったのはいいものの、それより以前には初心者分科会で、実行委員の一人 KEN さんの華麗な座長テクニックを見ただけなので、それが自分にできるかどうかダブルだったのですが…。

そもそもテストの勉強会なのに、仕事術って…仕事術って。

本当にやらせて頂いていいんですか？

(;´Д｀)

人が集まるのかがそもそもまず不安、分科会会場の大広間の一角で、私と、アシストを買って出てくれたあすかさんと二人でポツンと「どうしますー？」なんて言っている光景が目につかびます。焦る焦る。焦りついでに勢いよくディナーセッションで宣伝。緊張するけどやるしかない！

そんな心配をよそに、蓋をあけてみたらテーブルを囲んで議論が飛び交う白熱ぶり。

どんな議題が出たか書いていくマインドマップのための A3 用紙も、9 枚があつという間に埋まりました。

とある参加者さんからの「任せられた仕事が上手く終わらせられない」というお悩みについては、分科会の分科会が開催され、「WBS について」「チケットについて」「仕事をどのように分割するか」など、各グループで話された事を発表する、という形にまでなりました。

参加されたみなさま、ありがとうございました。

■そして本開催

参加者 15 名、持ち時間 8 分でそれぞれ仕事術をプレゼン、その後お役立ち仕事術を投票してもらい、得票数の多かった人が優勝、というイベントでした。

発表順はくじで決定しましたので、一番を引きたいのみさんからの発表でした。

時間は有限ですよ、から始まり、タスク管理術などのお話でしたが、やはり自分にはなかった工夫や発想、知識のオンパレード！ しかもプレゼンの見せ方が秀逸で、思わずタイムキーパーの仕事忘れそうなくらい、話に引き込まれる！最初から、今日のレベルの高さを思い知らされるプレゼンでした。

その後も、50 ページ(!)のパワポを濃い内容とともに 8 分でプレゼンしたみずのりさん、写真一枚で会社のデスク周りをプレゼンしたなかさやさん、資料無しで 8 分人との関わり方をプレゼンしたみなみさんなど…

レベル高い。高すぎる。

みなさん、普段の仕事術を工夫されてるだけでなく、この場での見せ方・伝え方まで工夫されてるのですね。実際の環境ややり方を見せてくださった方もいました。

レベル高い事は想像してましたけど、まさかここまでとは。

そしてとても内容は濃く、一つ一つの言葉が、まさに金言。今回は8分にまとめていただきましたが、一人ずつ、きっと話そうと思えばセミナー講師ができるのではないのでしょうか。

投票の時間には、一人に絞るのが難しい、という声があちこちから上がりました。まさにその通りで、私もずいぶん悩みました。

投票の結果、仕事術コンテストの優勝者はまさおさんになりました。

プレゼンの内容は、全然関係のない業界から得られるものがあるのではないか、という内容で、皆さんの笑いを取りつつ、気づかされることとこれからの発展を感じる素晴らしいプレゼンでした。

他も繰り返しますが本当に優劣つけ難く、何か発言があるたびに新しい事を得られるような、そんな会になりました。

なので会の様子をつぶやいていたTwitterも、ハッシュタグ(#ShigoCon)がトレンド入りするほどの盛況ぶり。

こちらも参加された皆様、ありがとうございました。

■所感

冒頭でお話したとおり、すごい人の仕事術が知りたい、というとても個人的な要望が、沢山の皆様のお力を借りて、仕事術コンテスト盛況という結果を得ることができました。ありがとうございます。

周りの人たちに支えられ、上手く導いてもらい、がむしゃらに着いてきたら気がついたらここに立っていた、というのが今の素直な気持ちですが、得られたものが山のようにあります。

(例えば、一つは、自分のやりたい事、目的、趣旨を言葉に表していかに細部まで伝えるか、という事だったりします(言葉にすると当たり前でもない事ですが、一つの言葉から受け取るものがいかに十人十色か、そして自分の考えを伝えるのにいかに言葉を尽くさなくてはいけないか、実感しました。)

他の人を導けるようなレベルの高い人たちと、何かに挑戦できるって、他ではなかなかない場です。高い対価を支払っても、あるかどうか。会社でなくて、なおさらです。

そんな場が、目の前に提供されている、これはすごい事だと思っています。

今回、何でもない眩きが、そんな場をお借りして発展し、小さな挑戦と失敗を重ねて、大きなものを得ることができるようになりました。

たった半年前には、自分が発想したことでイベントを開いているなんて、夢にも思いませんでしたが、その事を思うと、とても加速しずいぶん前に進めました。この経験は、会社に持ち帰って、周りを巻き込んで何か実行するような仕事に生かしていこうと思います。

そんな場を作るためにご尽力なさっている方々、今回趣旨を理解し参加して下さった方々、そんなレベルの高い方々のコミュニティに参加しているだけでもついていくのに必死ですが、これからは僭越ながら得たものをこれからまた少しずつお礼にお返ししていけたらな、と思っています。

ありがとうございました。

■告知

仕事術コンテスト、第二回目を来年2月あたりに開催する予定です。

(もう少し、今度はうまくやる予定です)

要項が決まり次第、ハッシュタグ(#ShigoCon)で告知いたしますので、どうぞよろしくお願いたします。

—JaSST'12 Shikoku Report—

7月13日に参加した、JaSST 四国のレポートです。

■もはや自動化しかないのだ！～テストツールの最新情報～

TestLink 日本語化部会、Android テスト部などにも所属するツール大好き人間である東氏による、**スマートフォン関連のテスト自動化**とそこで使われているツールの紹介です。

◆スマートフォンのテスト

スマートフォンのテストは大きく製造元である**メーカー側のテスト**と、モバイル通信事業者などの**キャリア側のテスト**に分かれます。メーカー側で実施されるテストは主に単体テスト、メカテスト、キャリア指定テスト(キャリア側が指定したテストの実施)、ランチェンテスト(市場不具合の修正確認)などがあります。それらの内、**過去の不具合に対するテスト、基本機能テスト、アプリの競合テスト、回数テストなどはテストの自動化に向けています。**

またキャリア側では主に受け入れテストが行われています。こちらは通信プロトコル関連のテストとして、基地局シミュレータやフィールドテストなどが行われています。

これらのテストに対し、東氏の所属する会社の検証サービスでは、単体テスト以外のテストをサービス対象としています。

◆人手テストの問題点

- ・テスト**仕様の解釈**が担当者によって異なる
- ・**不具合が再現**できない場合がある
- ・不具合報告が重なると開発部門との**人間関係**が悪くなる
- ・コードフリーズ直前は怖くて不具合を見つけたくない**心理**になる
- ・再現の難しい不具合だとコスト増が心配で見なかったことにしたい**心理**になる
- ・テストが苦行のままだと、**採用→教育→離職→採用**…の負のスパイラルが生じる
- ・労務管理、偽装請負対策等の**法令遵守**が必要になる

◆人とツールの役割を明確にしよう

人が得意とする役割は以下になります。

- ・「**質**」に対する頭脳
- ・**複雑な操作**
- ・探索的テストなど、**一定でない操作**
- ・曖昧かつ**フレキシブルな操作**

ツールが得意とする役割は以下になります。

- ・「**量**」に対する道具
- ・**同じ動作とタイミング**の操作
- ・**繰り返し**操作
- ・**正確**な操作

◆テスト自動化ツールの特徴

- ◎：ショートコール 2000 回など、一度自動化してしまえばテスト実行が苦にならず、急なテストの依頼にも対応できる
- ◎：**膨大な回数**をこなさないと再現しない現象の確認に使える
- ◎：**エビデンス**が残る
- ◎：実行時間が読めて**計画**を立てやすい
- ◎：**業務時間外**を有効に使える
- ◎：文句を言わず嘘もつかない
- △：導入コスト、学習コスト、スクリプトの作成やメンテナンスのコストがかかる
- △：ツールの性能を最大限に発揮させるには様々な工夫が必要になる

◆どこまで自動化できるか

- 自動化に向いているもの。
- ・画面(**画像**)が一致するかの検証
- ・**ログ**など操作結果を確認できるもの
- ・ハードウェア追加による適用範囲の拡大
- ・テスト結果を**データベース**から出かし、報告書作成を自動化

反復型開発と相性がよい。

- ・自動化項目の抽出
- ・テスト目的に合わせた自動化可否判断が必要になる

◆多機種で使い回せるテストシナリオ

- ・環境設定、前処理用シナリオは機種毎に作成する
- ・遷移シナリオ、検査シナリオは共通化できる
- ・通話中のメール着信など、アプリケーション動作中に特定動作を競合させる
- ・1本1本は単純な**シナリオを組み合わせ**ることで、膨大なテストパターンを作成することが出来る

◆テスト自動化エンジニアを目指してみないか？

- ・ソフトウェアテストを自動化する「**エンジニア**」のこと
- ・テストツールを使いこなし、カスタマイズも出来る
- ・テスト仕様書やテストスクリプトを、メンテナンス性を考慮して作成し、ノウハウを**資産化**できる
- ・自動化しやすいテスト項目の抽出と、より**効果**

的で効率的なテストを実施できる

- ・エビデンス付きの信頼性の高い**テスト結果報告**を作成することが出来る
- ・常に自動化を探求し続ける、**自動化魂**を持っている

◆テスト自動化エンジニアのタスク

- ・テスト対象を**分析**し、テスト工数を**見積もる**
- ・メンバーのアサインや、チーム内でのルールやスクリプト管理方針の策定など、作業を**計画**する
- ・自動化すべきかの**判断**
- ・自動テストの**実施**
- ・ツールにミスがないか、テスト結果の**レビュー**

◆テスト自動化エンジニアに求められるもの

- ・**プログラミング**経験(コーディングが必要な場合有り)
- ・メンテナンス性を考えた自動化スクリプトの**設計**スキル
- ・場合によってはスクリプトの**自動生成**スキル

◆テスト自動化エンジニアになりませんか？

- ・欧米では**一つの職種として確立**されているらしい
- ・人手でのテスト実施は他国との**単価勝負に勝てない**
- ・**付加価値**をつけて勝負すべき時代になっている

◆感想

現場で活躍している東氏の発表でしたので、自動化のメリットについて説得力のある説明が聞けました。また自動テストのデモを見ることが出来ましたので、テスト自動化についてのイメージがととてもよく分かる発表内容でした。

■ワークショップ「Model-Based Testing 入門～グラフによる振る舞いの抽象化とテストケースの設計～」

香川大学の助教授を務める高木氏による、グラフを使ったModel-Based Testingについての講演と演習です。

◆ワークショップでの MBT (Model-Based Testing) の定義

テスト対象や運用環境を形式的モデルによって抽象化し、これに基づいてテストケースを設計、実行する方法の総称です。また形式的モデルとは、コンピュータが解釈可能な図や数式、人工言語で表されたモデルを指します。

抽象化とは「重要でない情報を省略すること(捨像)」であり、抽象化することでテストケース設

計の体系化や保守性の向上が可能になります。モデリングは熟練が必要で人手が必要ですが、モデルが完成すれば**テストケースの設計を自動化**することが出来る様になります。

抽象的なモデルから導かれたテストケースは同様に抽象的なので、別途具象化の作業が必要になります。

◆グラフによる抽象化

今回のワークショップではテスト対象となるソフトウェアの**状態遷移**について、状態遷移図と状態遷移表を使ってモデリングする演習を行いました。ソフトウェアの状態をノード、遷移をアーク、遷移を引き起こすイベントを当該アークのラベルとしてテスト対象ソフトウェアの振る舞いをモデリングしていきました。

またグラフ(状態遷移図)作成時の注意は以下になります。

- ・開始状態から全ての状態へ到達可能であること
- ・全ての状態から終了状態へ到達可能であること
- ・生起するイベントから遷移先が一意に定まること

◆並列に動作するグラフ(状態遷移図)の合成

状態 A/B/C に遷移可能なグラフと、状態 X/Y/Z に遷移可能なグラフの二つがある場合、その二つを合成した状態 A_X, A_Y, A_Z, B_X, , , C_Z に遷移可能なグラフを作成することが出来ます。ただし合成後の状態数は各グラフの状態数を掛け合わせた数になり、そのままでは多すぎるので、現場に適用するにはまた別の方法があるらしいです。

◆演習

グラフの作成とグラフの合成、2つの課題について演習を行いました。

1つはテレビの**再生機能と録画機能が独立して動作する製品**の振る舞いをグラフで定義しました。またもう一つはメールソフトウェアのメッセージ新規作成機能の振る舞いをグラフで定義しました。

◆感想

演習では何人かグラフを発表していましたが、人によってどの様に状態が遷移していくか解釈の違いが見えて興味深かったです。

■終わりに

JaSST 四国は連休と繋がって開催されるので、四国を訪れた事のない方は是非この機会に旅行してみると面白いですよ！讃岐うどんや松山城に日曜市など見所は盛りだくさんです。

(おたべ)

ぱじゃま★パーティー

てすバナ語るっcha

■「そういえば、投稿戦士以外に
WACATE ファンの発信方法ってないよね・・・」
「ないなら創ってしまえばいいじゃない！」
↑ということっ☆
チャットルームを開設することになりました〜

WACATE-Magazine の新企画として、投稿戦士以外の
カタチで読者など WACATE ファンが関われるイベン
トとかできないかなあ？・・・という案から、チャ
ットで座談会(分科会出張所的なもの)を開催した
らいいんじゃないかなあ・・・という話になりました。
だいたい月1回開催で、その都度テーマを決めてみ
んなで語り合おう！という企画です。チャットの内
容は Magazine に掲載します！

〇ルールは今のところ以下のとおりだよ！

其の巻：

チャットの内容は WACATE-Magazine に掲載される
前提です。したがってログを保存させていただきます。
もしオフレコの発言がありましたら、その際に明確
にしてください！なお、全部オフレコっていうのは
受け付けませんっ！！www

其の式：

テーマに沿った発言をしよう！(できるだけ・・・)
毎回テーマを決めます。そのテーマから大きく外れ
ないようにご協力願います。
オーナーが沈黙し始めたらそれは脱線復旧のチャ
ンスを狙っていると察しましょうwww

其の参：

悪口や誹謗中傷の類はダメよ！(冗談は、明らかに
ネタってわかるようにね♪)

其の肆：

対話とか論議を楽しみましょう。ROM だけ、ひたす
ら語り続ける、といった一方通行にならないように
心がけましょう♪

次の開催日時(まあ夜です。パジャマパーティーで
すからw)、テーマ、申し込み方法はこのコーナー
の最後に記載します。
オンラインという特性を生かして、各地のテスト大
好きな仲間と繋がりたいと思います。皆様の参加を
お待ちしております！！

◆第12回

開始メンバー：yumiko さん、Masao さん、きんぢさ
ん、第3パイオリンさん、
編集部員コヤマン、ばんばん

—今回のテーマは？と twitter で募集をしたとこ
ろ、yumiko さんから「ドキュメントについての悩
みについて！」という声。

コヤマン：さて。ドキュメントって、人に伝えるた
めの手段として文書を用いていて、その文書、とい
う認識でよいですか？>yumiko さん

フォーカスを狭めるべきかどうかちょっと考えた
いなーと

yumiko：はい、そのとおりです。

永田さんが書かれていた「暗黙知」ってやつは共有
ですw

↑いきなり本題に近い現象がwww

みなさん、ドキュメント関連で困ってることとか気
になってることとか、適当にばあーっとあげてみる
なんてどうでしょう？？

Masao：直近の案件、そんな感じでした…orz

きんぢ：・「レビュー技法」なるものが「テスト技
法」とくらべてあまり成熟していない

・「設計工程」なる工程があるとして、その工程の
プロセス品質メトリクスがいまいち(レビュー時間、
欠陥発見密度とか)

ぱっとおもいつくのこの2つですかね、私は

yumiko：(今 SQiP のレビュー分科会にいるんですが、
テストやってるうちにやっぱりドキュメントの改
善の話とかレビューの課題が出てきて、自然とそう
いう流れになりました。)>レビュー技法の成熟
メトリクス、悩みます。。

レビュー時間はどう使われるんですか？>きんぢ
さん

(時間の測定結果をどう判定に使うのか、という質
問でした)

きんぢ：時間とか工数ですね、〇〇ページに大して
こんだけレビュー工数かけたから十分でしょ、って
のを過去データかなんかと比べて(いちおう)定量
評価、的な

yumiko：ありがとうございます。

どれくらいのお金かけてどれくらいの数の欠陥出
た、っていう管理もするのでしょうか？

コヤマン：ふむ。プロセス品質の話か。。

コヤマン：レビューの技法といった時に、リーディ
ング技法の話をするのかと^^；

きんぢ：そこはどっちかにしぼったほうがよいか
もですね(´ω`;))

yumiko: (プロセスになってますね、今のところ。) 技法だと、何を見る???の話でしょうか
きんぢ: 私の関心ごとは「どう欠陥を発見するか」ですかね。まあ同じな気もしますが

yumiko: どうPJを管理するか、ではなく、どう発見するか?のほうですか? >きんぢさん
コヤマン: えーと。一応レビューのリーディング技法というものもあつたりします。ユーザーベースドとか、アドホック、ディフェクトベースド、パースペクティブベースド…ちょっと待ってね
森崎先生の連載でした。

<http://www.atmarkit.co.jp/im/carc/serial/review/03/01.html>

yumiko: (SQuBOKの出番!???)

きんぢ: なつかしい

Masao: (今、SQuBOKガイドを開いている)

yumiko: ちなみに、何を見つける?を知りたいと思う元の課題はどんなことでしょうか?
テストで見逃した、テストのとき困ってるからレビューでもチェックしたい、などなど。
あとテストじゃ無理だからPJのレビューの人に見てほしい、とか??

きんぢ: あ、正直あまりテスト屋という立場関係なく、**レビューはこうやるんだ!ってのがある程度形になってるといいよねー**っていうただそれだけですw

…といいつつ、少しテストの知見が入りますが、例えばデシジョンテーブルを条件部をかつちりかくと動作部うまらないところがあって設計漏れが見つかる、みたいな。プロセスというか技法(プロセスより粒度細かいかなーというイメージ)

Masao: 鉄則のようなものでしょうか?

yumiko: プロセスを定義したい、ということでしょうか? >きんぢさん

テーマに応じてきんぢさんが話すところからどんどん話を広げるyumikoさん。
—そこにカリスマKEN-sanがJoin!

KEN-san: こんばんわー

yumiko: >KENさん

twitterでご存じかもしれませんが、今夜はドキュメントな話で今レビューの話になってます。

KEN-san: 了解です。

フォローありがとうございます。

yumiko: 何困ってるの?の話をとりあえず出してみよう、のところ。きんぢさんから、レビューはやり方が決まってないから困ってる。テスト技法も使えるよね、の話が出ました。

きんぢ: (Wモデルっすね)

yumiko: >きんぢさん

(話のつづき)そうそう、そういうのはテスト技法を活用したいですね。私もそう思って**テスト技法講座はレビューにも使ってもらおう技法として紹介しちゃってます。**

yumiko: モデル、みんなで書きたいですね。。。形式手法とまでは言わないけど、日本語が苦手な部分は使いたいなあ、と思ってます。

コヤマン: ふむ。ドキュメントで仕入れた情報をモデル化することで暗黙知を共有したい、その中でテスト技法使えるよね、という話の流れになっていると思いますが…さて、どこをメインで語りましょうか^^

yumiko: (モデルってみなさん書いてるものですか?※モデルって言ってもいろんなのがありますが、いろいろ出してみるのでもいいかな、と。)

きんぢ: 当社は標準フォーマットにはアクティビティチャート、ステートチャートは入ってますね

yumiko: (話のつづき)

おおー、やはりその2点は入ってるんですね。>アクティビティチャート、ステートチャート

議論がチャートなどの話になってきたところにきんぢさん、なかさやさん、みずのりさんがJoin!

きんぢ: こんばんはー

なかさや: こんばんは。

みずのり: こんばんわです

きんぢ: なんの話だったんです?

yumiko: 今夜はドキュメントの話で、今はレビュー技法→テスト技法やモデルを使うあたりの話になってます。イメージはManiaXとUAS2の森崎先生、永田さんの記事あたりを想定すれば合ってます。

きんぢ: ドキュメント。。。なるほど。

yumiko: そんなで、どんなモデルをみなさん書くことになってますか?っていう質問に、きんぢさんがアクティビティチャートとステートチャートが標準に入ってます、と答えたところです。

きんぢ: ほうほう。。。。

yumiko: (つづき)

その2つって、書こうと思ったら詳しく書けるし、レベル感が難しくないですか?書く単位とか。どのまとまりで1枚にするの?みたいな。(テスト分析やテスト設計に近くなりそうな話ですね。)

きんぢ: 標準手順なんでめっちゃ重厚長大ですが、4レベルぐらいにわかれてて、各レベルではこんな書きっぷりというのは定義されております

きんぢ: なかなか文字で伝えるのが難しいところですが…

yumiko: そうですよ。…4レベル!

きんぢ: The WaterFall

yumiko: I got…

yumiko: (2人で話してますが、このへんで他の方のコメントきいてみたいなあ、なーんて。。)

きんぢ:

>その2つって、書こうと思ったら詳しく書けるし、レベル感が難しくないですか?書く単位とか。どのまとまりで1枚にするの?みたいな。

(テスト分析やテスト設計に近くなりそうな話ですね。)

っていうのは、別に他のドキュメントでも言えるのでは？(ここで議論されそうなドキュメントという意味で2つに限った話じゃない気がした。)

yumiko: はい、他でも言えます。その加減が難しいですよ。

きょん: 文字で伝える事ができないものをなぜ文字で伝える必要があるのか考えてないで、一律的に構成つくるドキュメントとかまぢいらないわーってよく思う。

yumiko: 一般的にここまで、っていうレベルを決めるのはできないので、決め方とかそのへんの議論が有用かな、と思っています。あとそういう話をするときに課題になることとか、問題になりやすいから気をつけたほうがいいこととか、開発者目線、テスト目線、保守目線、などなどからの意見がいろいろ出るとおもしろいんじゃないかと思います。

「一律的に構成作るドキュメント」ってどういうものなのでしょう？>きょんさん

きょん: aaa 設計書では xxx という詳細感で書いてあるから、bbb 設計書でも xxx という詳細感で。とか。aaa 設計書で 1-4 レベルまであるから bbb 設計書で 1-4 レベルとか。相対値だったらいいけど、絶対値で見たらダメだと思うです。詳細感じゃなくても、項目の合わせ方とか。必要な情報を必要な規則に合わせてつくらないと、無駄が多くなるだけじゃないですか？有則のテストが必要なところに無則のテストやっている。みたいな。

なかさや: どの ManiaX? 最新持ってない><

yumiko: (なかさやさん、最新刊でした。このメンツなら持ってそう、と思ひまして。すみません。)

きょん: あ、どうでもいいこと書いていたらつっこんでください。

yumiko: >きょんさん

全然、どうでもいいことなんかじゃないです。必要ないことまで書かされていることもあると思います。納得感がないと書くより作らせろ！って鳴ると思いますし、本当に無駄な工数を投入してるかもしれないし。「必要な情報」は、いつ、どんな立場の人にとって、でしょうか。

きょん: 必要になったら書けばいいんじゃない？っていつも思っていますね。プロジェクト体制とか、チームメンバーとかで明確にしたい情報が明らかに違うので、あんまり固定化したくないですね。引き出しとしてのバリエーションは必要だと思いますけど。

なかさや: どこまで書けば充分で、どこからが書き過ぎなのかしら？

第3バイオリン: あ、それ私も気になります>どこまで書けばいいか

Masao: 工数とのトレードオフになりそうな気が...

yumiko: どこまで考えてどれくらい書か、はありますよね。

きょん: 十分なレベルって書く前に定義しないの？

ここで特別ゲスト、田守さんと編集部員のうえださんが Join!

コヤマン: 田守さんに来ていただきました！

田守: まいど！

yumiko: 田守さん、こちらでもかってにレビュー分科会してました(汗)

田守: いいですね！

yumiko: ManiaX や UAS2 読んで、テストのみなさんとも話してみたいなあ、と思ひまして。

(あの一、これまでの流れをどなたか書いていただけると助かります。今日たくさん書きすぎてヘタれてきましたorz)

コヤマン: はい。最初はドキュメントの話をして、という話をしていたのですが、暗黙知の話→レビュープロセス品質→リーディング技法という話になり、暗黙知の話に戻ってモデル図の話になり、その粒度の話に流れています。

なかさや: モデル図の話？(^o^;

みずのり: 現状は、開発で必要なドキュメントはどんなの？という感じですか？

コヤマン: 当初、ドキュメントの話としては、「人に伝えるために文書形式のものを作成した場合の文書」という認識でお話をしていて、暗黙知を整理するのに、モデル図などを書くのが有効で、抜け漏れが見つかるよねーという話をしていましたね。

なかさや: 「ドキュメント」はどれって定義せずに話をされているんですね。作る用かテスト用か報告用か、など

コヤマン: ドキュメントの用途についてはキッカリ決めてませんね。>なかさや

Masao: (コンテキストを合わせたほうがよさそうですね)

ばんばん: ドキュメントの話、というより、いかにレビューをするか、という話のほうがメインになっていませんか？最初は、いかにドキュメントを上手く作るか、という話をするのかと思っていました。でも、話はどちらかというと、誰かが作成したものに対してどうやって指摘するか、のほうに傾いていたかなど。この先は、どちらの話をしようとしていますか？

田守: ドキュメント作成の目的はだいたい合意できている流れなんですかー？

コヤマン: ドキュメント作成の目的としては、「人に伝えること」というのでぼんやりと合意はできているかと思ひます。

田守: なるほど

コヤマン: 問題は議論の流れの方向が合意できていないかとw

yumiko:

コヤマン: 当初、ドキュメントの話としては、「人に伝えるために文書形式のものを作成した場合の文書」という認識でお話をしています

<<< ↑ここまではしか合意していないです。(とりあえず流れを見てました。)

田守: 伝えることを目的とするならば、全体像がみえるかどうかってところは一つ大事かもしれないですね。(すみません。あまり議論をリードするつもりはないんですが・・・)

yumiko: 「全体」がきついろいろあるんですよね。

きよん: 話したい人が「レビューの話」「作成過程の話」「合意の話」ってすればいいだけのような気がする。

Masao: ドキュメントに関わるお隣さんって誰なんでしょうか？

yumiko: そうそう、お隣さん！なので、「必要な情報」は誰にとってでしょうか？っていう質問をしました。

Masao: あと、自分の立ち位置も必要な情報かな？

第3バイオリン: そこですね。誰にとって、がわかってないとせっかく作っても使えないです。

なかさや: 誰が、何を、誰に向けて、伝えようとしているのかしらん？

きよん: **誰かに読んでもらいたいという情熱がないのに、ドキュメントを書き始める状況が想像できないのですが。どういう意味？**

とりあえずドキュメント書き始めたけど、あとから「ああ、こういう人向けにも書くべきだった」というのがあって、「お隣さんって誰だろう？」的なノリですか？

Masao: **組織が大きくなると、どのような立ち位置の方がいるのかよく分からないこともありますね。**

なかさや: 極端な例だと、**書けていわれたからとりあえず書いてる、なんてのもある**と思います。

みずのり: **プロセス上定義されているから作っちゃう、とうのはあるかもね。**

なかさや: **あと、自分のため、とか。なので、自分が分かればよい状態になってるとか。**

みずのり: あまり好ましくないですけどね。

第3バイオリン: でも、よくある話ですよ。

うえだ: ドキュメントを作成する場合、まず章立てを作って、そのレベルで必要なことが盛り込めるかってのをレビューします。で、足りなかったらまた章立てを考えるって流れでまずは、そのドキュメントに何が盛り込まれるかをレビューしますね。

きよん: **ドキュメントってそのソフトウェアだけでは伝わらない(もしくは触れるようになる前に必要)だから書くものだと思ってるので、その伝わらない部分を説明する必要がある人に、説明をするためのものですよ。組織が大きいからっていうのは状況の一つであって、やろうとする事自体には変わらない気がしました。**プロセス上っていうのはまあ残念な例ですよ。

議論が混沌としてきたところにゲストの田守さんが静かに語りかけます。

田守: やっぱり明確な目的がないとすっきりしない感じですかね・・・書き始めるとなんかこうモヤッとした部分が明らかになってきて、相談すべきことや考えるべきことがだんだん明らかになってくるというか・・・

それと保守、テストのドキュメントは分けて考えるべきだと思うのですが・・・組織内テンプレートに沿ってるとそういうとき相談しやすいですよ。

作るためのドキュメントと伝達のためのドキュメントは分けて考えないと厳しいような気がします。

作るためのドキュメントの話をしていました。

伝えるためのドキュメントは全体像がみえないときびしいような気がします

きよん: 伝達のためのドキュメントってユーザー操作手順とか？

田守: ユーザに伝えることを前提とすれば

なかさや: 作るためのドキュメントって？

きよん: いわゆる外部設計書とかかなって思いました。>つくるため

KEN-san: 次のプロセスの入力として耐えうる文書

なかさや: 作るため、と言っても、設計書を書く人から作り込み(コーディング)する人に伝達するためのドキュメントになるのかと思ってました

きんぢ: ふわっとした表現ですが、要件定義、外部設計、内部設計、コーディング、全部やる人違うこともあったりしますからね各段階で伝言ゲームが発生します

yumiko: どこが違う人なのかは大事ですよ。

きよん: 設計と実装が同じ人の場合もあるし、別の人の場合もあるでしょうし。

みずのり: 同じ場合には、作るためのメインで良さそうだね。

KEN-san: いや、保守の話が目的にはいるとそうでもない みずのり

みずのり: あ、確かに->KENさん

なかさや: 弊社はベンダーなので、**だいたい作成したドキュメントは納品物になります。そうすると、作るためのドキュメントも納品物となるときには発注元に伝達するドキュメントになってないと、納品物がただのモノになってしまいます。(保守とテストはちょっと分けて考えるようにしてます。田守さんにならって)**

きよん: どうつくてあるかっていうことに納品される側が気にするってことですか？

みずのり: システムインテグレータとしてベンダーに依頼する場合は、SI側が保守する場合もあるので、どうやってあるかは気にするよ

なかさや: これも発注側によってしまいますが、納品したドキュメントが読んでももらえないなら、納品する必要もなくなるかなど。じゃあ、なんでドキ

ュメントを納品するの？と。

Masao: (B to B の話で理解すればよいでしょうか？
イメージがつかなくて(泣)…)

きよん: まあよくあるのは、設計に人月かけている
ときに、お客さん側として「やりましていう物が
ほしいから、ドキュメントで渡してよ」っていう。
それが効率いい場合もあるだろうし、ダメな場合も
あるでしょうけど。

田守: 契約形態や業種によってかなりかわります
よね。説明責任のためのところもあれば、もやっと
いつか別の所に頼むこともあるかもしれないから、
とか。

きよん: ですねー。

田守: そこが合ってなくて会話がずれてしまう
というのもあるような気がしています。レビューの話
ではよくあって結構困ります

KEN-san: さっきのどこまで書かかって話もそう
ですね。文書目的のずれ

みずのり: 対お客さん (BtoB、BtoC で違う)、対会
社内の別部門。ご近所さん、お隣さんの違いで
会話のしている人たちのイメージが変わりそう
ですね。

KEN-san: 文書の冒頭に誰のための何を目的とした
文書ですって書くよね？

みずのり: 目的、概要みたいなものはありますねー。
テンプレにも>KEN さんさん

KEN-san: **俺のテスト設計書の冒頭に JSTQB-FL に
合格してる人じゃないと読むな！**って書いてある。

コヤマン: ww

yumiko: www

なかさや: www

みずのり: うちの会社と関連会社の人ほとんど
読めません(ノノ)

きよん: 僕も読めないの、それ Alloy で書き直し
てもらっていいですか？ (おい)

yumiko: (ドキュメントを書くときに、何を確認し
なきゃいけないのかが、だんだんクリアになってき
てるのがいいですねー。こうして話すときに、まず
何を確認すべきなのか、とか。)文書を書く人が、
正しくお隣さんや目的を理解しているか、っていう
のもまず最初にレビューしなきゃいけないポイント
になりそうな気がしてきました。

ばんばん: 「正しくお隣さんを理解している」とい
うのは、お隣が誰か、ということでしょうか？ドク
ュメントは必ずしもお隣さんに向けて書くもので
はないけど、お隣さんに限定しているの？

Masao: (みなさんの話が、「対お客さん (BtoB、BtoC
で違う)」「対会社内の別部門」「ご近所さん」「お隣
さん」のどれになるのか、明示頂けると助かります
…)

みずのり: ちよいと自分のお仕事のドキュメント。
自分の背景。SI をやっていてさらに上位顧客から
開発依頼を受けて、システム設計~SW 要件定義ま
でやって、まさお会社会的なところに依頼します。イ

メージしている対象文書はシステム設計書、SW 要
件定義書あたりです。

自分たちが出来るのは、上位顧客の意図を明確化し
て、さらに技術課題の検討、SW の開発に必要なイン
プットを明確化して、まさおが SW を作る際に困
らないように考えています。

Masao: (まさお会社会的→子会社)

みずのり: ボクがドキュメントを語る時はこのイ
メージでした。他の人と違うかも。

きよん: フィーチャーとか仕様を明確にする
っていうイメージなんですね。

みずのり: YES>きよんくん

田守: 同じ条件でも、プロダクト的扱いで寿命が長
いかどうかでかわりますよね

yumiko: 私は、みずのりさんのパターンと、全部自
社でやるパターンがあります。それで、プロダクト
の寿命は 10 年以上でどんどんカスタマイズしてい
くものもあれば、ちょこっとサービス部品としてリ
リースするような軽いものもあり、それぞれにレベ
ル感が全く違います。

みずのり: うちは大体まさおに依頼します^^

Masao: みずのりさんから請け負います^^

みずのり: その際に、相手の理解、(派生の場合)
元の機種をやっていたかどうか？等で記載度合い
が変わります。で、こちらは保守を考えてない意見
ですが…。

田守: **ドメインナレッジがあると記載内容が減り
ますよね。常識といえる部分が増えるので、あるっ
ちゃうか、共有できると確信できるというか**

コヤマン: ドメインナレッジ！ストーンとくる言
葉ですね。腑に落ちます。テストケースなども、ド
メインナレッジによって粒度が変わりますねー

みずのり: そうですね。まさおの会社について依頼
していると「わかっているよね」という言い方があ
ります。…丸投げケースもありますが。

Masao: 暗黙の了解ですね

yumiko: ドメインナレッジは共有されていて、開発
のフレームワークなども詳しいとさらに減ります。

田守: **私はそれが作るためのドキュメントだと考
えていて、開発の関係者で合意できてれば OK とい
うことで・・伝えるものは、それとは別に全体像が
みえていたり書けていないところがわかりやす
くなっていないといけないような気がしています**

yumiko: その全体像をどのように明らかにしてい
くか？っていうところがわかればだいたい違ってくる
そうですね。(書くことだけでなく書かないことを
合意しておくのも重要ですね。)

第3バイオリン: それって見える化みたいなもの
ですか>関係者で合意

田守: いえ、合意できてれば書かなくて良しとい
うことで

Masao: 「書かないこと→同一認識」なのでしょ
うか？

みずのり: 作るための認識が (議事録レベルでも)
そろえば OK ということもあるかと。>まさお

Masao: なるほど > みずのりさん

ドメインナレッジという言葉に一同ストーンと理解が進んだようです。さすが田守さん。てか田守さんって誰だよw

KEN-san: ドメインの話ですが…さっきの冒頭でJSTQB 云々の事も書いてますが、xxx のテストに1年以上関わっている事、というのも書いてます。コヤマン: なるほど。ある程度ドメイン知識があることを前提にしているのですね。>KENさん

KEN-san: ドキュメントとして書くものと教育で補うものを分けるためです。

yumiko: そういふのを決めて明記されていると楽ですね。>前提となる知識レベル

KEN-san: ですから1年以内の方がプロジェクトにはいる時は教育します。

ばんばん: ドメインナレッジの部分をできるだけ別のドキュメントに切り離すことを心がけていけば、シンプルなドキュメントになりそう。

KEN-san: そうです、ばんちゃん。開発文書と用語集とか教育資料で分ける境目です。

ばんばん: そういえばテストスクリプトも、「誰がやってもできるように」って考えでつくるととんでもないものができるよwwwなんだこの細かい説明: みたいなw

Masao: (あるあるw)

yumiko: (あるある!)

第3パイオリン: あ、それは確かにあります。

yumiko: 私も、教育や引き継ぎなどしなければいけない部分を書くのを考えています。

田守: 少し話が進みますね。こういう前提がかなり揃った状態で開発していると、ドキュメントはこういうもんだ、という概念が適当にできあがってしまっ、元々の経緯や理由を忘れてしまうような気がします。そこにすれ違いとか抜けとかがでてきてしまうような。

yumiko: まさに。

田守: そうすると記述内容や記述の手厚さをかえるとこんなメリットとこんなデメリットが・・・という話ができるような気がしています。そういう前提なしに「ドキュメントと言えば・・・」みたいな話が先行するとなんだかなあと思います。

Masao: (ドキュメント作成の目的をマッピングして、座標位置によって、書き方を変えるのもありかも。。軸は、n次元になりそうだが)

yumiko: すり合わせのときに使えるマップみたいのあると楽そうですね。

(テスト技法ポジショニングマップ思い出しました)

Masao: (そうそう、ポジショニングマップのイメージ)

yumiko: あと、今日出てきたみたいな、状況別のヒアリング項目とか。

Masao: コンテキスト合わせに必要な要素もあるとイネ!

きょん: 質問なんですけど、みなさんが言っているドメインってなに? アプリケーションドメイン? ソリューションドメイン?

yumiko: 例えば??

きんぢ: ビジネスドメインだと思ってよみすすめてました

Masao: 製品ドメインと捉えました

コヤマン: ビジネスドメイン・製品ドメインが近いと思います

みずのり: 製品かなー。

ばんばん: 私も製品ドメインのイメージがありました。組み込み系は製品ドメインって考えがち?

第3パイオリン: 私も製品と考えてました。

KEN-san: ビジネスドメイン、製品ドメイン、JSTQBの話は何だ? 不安になってきた。製品ドメインてなんだっけ? 携帯テストするのに電話知らないとかそういうので合ってる?

yumiko: 私もそこ不安になってました

コヤマン: JSTQBは業界ドメインかな? 製品ドメインは、KENさんの認識で合ってると思います。対象の製品の知識。

ばんばん: あ、業務ドメインかなって私も思いましたw

yumiko: (製品の何の知識だろう??) 契約形態とか、開発する環境とか、それぞれがいる場所の距離とか、いろいろ出てきそう。

ばんばん: 私は派遣さんなので、テスト業務とか開発業務とかそういう分けに馴染んでるからかなあ・・・業務って考えるの。ドメインってそもそも分野とか範囲とかという意味なので、何でもありかとw

みずのり: 僕は製品、業務知識とエンジニアリングの2つのイメージです。

製品、業務系知識がドメインで、エンジニアリングがテストとかの知識。

yumiko: 業務ドメイン知識って、私の中では生産管理とか販売管理とか原価管理とかがイメージされます。

きょん: なるほどー。

これはあくまで僕の考えですが、テスト仕様書に書くのってテストによるソリューションドメインかなって思っているの、ちょっとイメージがごっちゃになっていました。ありがとうございます。

きょん: アプリケーションドメインとソリューションドメインについて

<http://web.archive.org/web/20080803072849/www.biwa.ne.jp/~mmura/SoftwareDevelopment/WhatIsSoftwareDesignJ.html>

ソフトウェア設計とは何か?

(原文: What Is Software Design?)

By Jack W. Reeves (c)C++ Journal 1992

僕の理解ここにあるかんじ。

KEN-san: ありがとう、後で読むね。きょんくん

残りもわすかとなったところで久しぶりに
mayonezudaïouさんが参戦!

mayonezudaïou: こんばんは。。。お久しぶりです。
きょん: 僕のはみずのりさんの言い方だと、エンジニアリングの部分がソリューションドメインになるかな。プログラミングだと、「どうやってつくるかに必要な知識」がテストに置き換わるイメージ。

yumiko: 大王さま、こんばんわー。

今日はドキュメント分科会でございます。

mayonezudaïou: 流れるようにドメインについての意見をぶつけている状態?ドキュメント分科会!いいですね!

ばんばん: **ドメインとは?の話になっていますが、ドキュメントに対しては、どのドメインか、が重要なのではなく、どのドメインに対する情報がどれだけ記載対象から外されているかを明記することが大事、だと思っているのですが。**

なかさや: ああ、テストでも「テストしないこと」を明記するの大事ですが、ドキュメントも「取えて書かないこと」が明記しましょうってことですかね
>ばんばんさま

きょん: 現実的にどうやってドメインを表現するのかに興味があります。

yumiko: ドメインナレッジについてどれくらいの知識がを持った人を対象にしているのか、も??このへんどうやって定義するのか、SQuBOKには書いてなさそう。。。 (SQuBOKでなくてSWEBOK? PMBOK? ASDoQ?? (←いっこちがうけど))

KEN-san: 経験年数とか、決められた研修を受けているかしかくらいしか今のところないです。キョんくん

きょん: それはドメインの前提知識的な?>KENさん

KEN-san: うーん。そう…かな。 きょんくん

田守: 難しそうですね。書かないことを決めるのも結構難しいですよ。

yumiko: たいへんそう思います。レビューしないところを決めることでもあったり。

コヤマン: はい。ではまとめます。

今日の話ではまず、

「ドキュメント自身の目的」(作るためのもの、伝えるためのもの)と、「読む対象、読む対象のもつドメインナレッジ」が大きな要素。

それを表現する・書く中で、

「書くこと、書かないことを決めること」が必要そうだ、というところですかね。

…ざざっとまとめてみますた。

yumiko: Excellent!!!

コヤマン: はい。申し訳ないwとゆーワケでお時間もお時間ですので、ここで一旦ですバナ、終結とします!

一この後も mayonezudaïouさんを含めて一応の会話は止まらず、深夜までお話は続けました。中でも「ドメイン」についての話は深いようでした。あとはオフレコなので、話足りない方は是非、次回に「話したい!」とご一報くださいませ!

そして、本記事を読んでくださったアナタ!

全国のテスト仲間と、このチャットルームで話ってみませんか??

あなたなりの利用方法で、次回、チャットルームに語りに来てくださることを、楽しみにしています☆

■参加方法と次回予告だよ

□チャットに関する要件は以下の通りです♪

- ・Skypeのチャット機能を利用します(ボイス通信は使いません!)
- ・グループに参加していただきますので、コンタクトリストにない人が含まれるチャットに参加できるように設定してください
- ・チャットに表示される名前を、Magazineに掲載してよいハンドルネームに設定してください

さアて、次回の開催は・・・

10/13(土) 22:00~ chat 開始!

21:55にはパジャマに着替えてskype前集合♪
テストのお話しましょう♪

テーマは常に募集しています^^

今回のように「用語」についてもっと深く認識を確認したい。や「ドキュメントを作るうえで」の大きな要素はわかったけど、詳細に話してみたい! などなど、なんでもどうぞ♪

■参加申し込みは以下の方法で!

=====

WACATE-Magazine 編集部のチャット窓口

(magazine-chat@wacate.jp)に

「ですバナ参加希望」という件名で

以下の情報を添えてメールしてください。

- ・お名前
- ・Skype名(アカウント名もしくは登録アドレス)
- ・チャットで話りたいこと

=====

皆さんのお申し込みをお待ちしております☆

今回のチャットルームオーナー:コヤマン

Software Test Topics

当番：うえだ もとゆき (Magazine 編集部)

こんにちわっす

上田です♪♪♪

WACATE2012 冬の開催が決定しましたねっ！！

今回もどんな内容なのか興味津々です！！

開催日は12月15日(土)、16日(日)ってことで、、、実は、これってWACATEの第1回目として開催されたWACATE 2007と同じ開催日なんですよー。

でも、開催場所は「マホロバマインズ三浦」ですので、お間違いなくです♪

そんなわけで、書籍やイベントなどのお役立ち情報をみなさまにお届けしていきたいと思いまーす^^

【雑誌】WEB+DB PRESS Vol.69

<http://amazon.co.jp/o/ASIN/4774151041/wacate-22/ref=nosim>

出版社：技術評論社

発売日：2012年6月23日

価格：1,554円

ISBN-10：4774151041

ISBN-13：978-4774151045

ちょっと最新という訳ではないのですが、、特集に「JUnit 実践入門」というのがありますので、ご紹介いたします。JUnit お基本的な使い方から、機能拡張を用いたテストのカスタマイズ方法、さらに受け入れテストへの応用と、広い範囲でJUnitを用いた効率的なテストを実現するノウハウが詳細されています。

【書籍】Think Stats——プログラマのための統計入門

<http://amazon.co.jp/o/ASIN/4873115728/wacate-22/ref=nosim>

著：Allen B. Downey

訳：黒川 洋、黒川 利明

出版社：オライリージャパン

発売日：2012年08月25日

ISBN-13：978-4-87311-572-6

価格：2,100円

メトリクスを出すために、統計などを利用すると思いますので、ご紹介いたします。

Pythonのコードを示しての解説ということですので、プログラミング的な観点で統計が身につけられると思います。

【イベント】テスト設計コンテスト' 13

<http://aster.or.jp/business/contest.html>

申し込みめ切：9月下旬

成果物提出め切：地域により異なる

参加料：5,250円

テスト設計コンテストの参加申し込み受付中です。

申し込みめ切が9月下旬とのことですので、参加を考えている皆さまはお忘れなくー。

ちなみに、成果物の提出時期や予選の開催日については、参加する地域によって異なりますので、要確認ですね。

また、地域によっては予選ではなく、書類選考となりますので、そのあたりも合わせてご確認いただければと思います。

【イベント】JaSST' 12 Hokkaido

<http://jasst.jp/symposium/jasst12hokkaido/query.html>

開催日：2012年10月26日(金)

開催場所：札幌市教育文化会館

参加費：3,990円(情報交換会は無料)

参加申し込みめ切：2012年10月12日(金) 18時

今年のテーマは「発見伝」です。

「有識者のみなさんが”発見”された技術をみなさんに”伝”えたいと思います。」ということで、非常に楽しみです。基調講演は、静岡大学教育学部の森崎修司先生による「がんばるだけの品質向上活動からの脱却」になります。

また、レビューチュートリアルとして、日本IBMの原祐貴子さんによる「超高速コードインスペクションの実践」が行われます。

初心者向けワークショップとして、要求仕様書を題材にして、書かれていない情報を明確化するためのレビュー方法を実践するといった内容になります。

【資格】第9回 初級ソフトウェア品質技術者資格試験

http://juse-sqip.jp/jcsqe/juken.html#title02_index01

開催日：第9回 2012年12月1日(土) 10:30~11:30(予定)

開催地域：東京、大阪、名古屋、福岡、札幌(予定)

試験料：10,500円(税込み)

申込期間：9月20日(木) 申込開始予定

申し込み開始が9月20日からとなっております。

【資格】第3回 中級ソフトウェア品質技術者資格試験

http://juse-sqip.jp/jcsqe/juken.html#title02_index01

開催日：2012年12月1日(土) 13:30~15:30(予定)

開催地域：東京、大阪(予定)

試験料：15,750円(税込み)

申込期間：9月25日(火) 申込開始予定

こちらは、中級の資格試験になります。

開催日は初級と同じになりますが、開催地域や試験料、申し込み開始などが異なりますので、お気をつけ下さい。

このコーナーでは、書籍やイベントの情報を募集しています。

例えば、「来月勉強会とか OFF 会とか開催するんだけど掲載してくれない?」といったものでもOKです。

開催地も、日本全国津々浦々、どこでもかまいません。

情報をお待ちしております m(_)_m

開 運

源太郎の ソフトウェアテスト占い

※「ソフトウェアテスト占い」とは…
日本の伝統的な暦で知られる気学(九気性)をもとに、日本古来の統計学とソフトウェアテストで培った時代の統計学を組み合わせ考察された占いである！(笑)

	生まれ年	9月の運勢(9月8日~10月9日)
一白水星	S38/S47/S56/H2	年盤・月盤ともに中宮と相性であるために、 運気は好調 なり。ただし良宮に会しているために、 物事が思うように進まない こともあるであろう。また変化のときもあるので、 周囲への配慮を怠り、注意力散漫になれば、大きな損失を招く と心得よ。
二黒土星	S37/S46/S55/H1	本月は、離宮に会しているために、 表面的には明るく・派手に見える が、内容が伴わないことも多く、 手戻りがある 。堅実な歩みが近道と心得よ！次々と色々な話が舞い込んできますが、 甘い話には注意すべし、欲に目がくらむと禍を招く なり。
三碧木星	S36/S45/S54/S63	年盤・月盤ともに中宮と相克であるために、 運気は低迷気味 なり。ただし坎宮に会しているために、 水の力に守られる であろう。 無理に動く と濁流に巻き込まれて、 大きな損害を招く であろう、 見栄は禁物 と心得よ！
四緑木星	S35/S44/S53/S62	本月は、年盤・月盤の中宮、会している坤宮とすべて相克となっているために、 運気は低迷気味 なり。ただし坤宮の影響により、 地道に努力することで、平穏な日々を過ごせる であろう。また中宮の影響もあり「 陰徳あれば必ず陽報あり 」と心得よ！
五黄土星	S34/S43/S52/S61	年盤・月盤ともに中宮と相性なれど震宮に会し、 運気はほどほど と心得よ。ただし震宮の影響により、 新しいことを始める気に満ちた月 になるであろう。さまざまな アイデアも生まれる 。されど 欲をかきすぎると禍を招く ので、 腹八分が吉 ！
六白金星	S33/S42/S51/S60	本月は、年盤・月盤の中宮と相性なため、巽宮に会しているが 運気は上昇傾向 にある。巽宮の影響で様々な「 縁 」により 応援・援助を受ける機会も多くなる であろう。ただし 年盤で五黄殺 となるために、 自分から動きすぎると損害を招く と心得よ！
七赤金星	S32/S41/S50/S59	年盤中宮と相性で月盤中宮に会しているために、 運気好調 なれど自らは 動かないことが吉 なり。 来月は年盤暗剣殺 のため、 些細なミスを放置しておく と、 大いなる禍の種になる であろう。手を広げるよりも、 自身・組織の内部強化を優先 させるべし！
八白土星	S31/S40/S49/S58	本月は、乾宮の影響を受けて、 前に出たいという気持ちが強くなる月 。乾宮は「天」「父」の星ゆえに、 責任感も強くなる時期 なり。 年盤暗剣殺 のため、 過ぎたる責任感により禍を招く こともある。 自分勝手な行動は慎むべし！謙虚・調和が吉 なり！
九紫火星	S30/S39/S48/S57	年盤・月盤ともに中宮と相克、兌宮に会しているために、 運気は低迷気味 なり。兌宮の影響を受け、九紫の特性である 表面が煌びやか、内実を伴わない こともあると心得よ。 無理に行動すると、大きな災いを呼ぶ ので、 着実に進めるのが吉 なり！

月盤 七赤金星				年盤 六白金星			
南				南			
東				東			
五黄殺	6	2	4	五黄殺	5	1	3
	5	7	9		4	6	8
	1	3	8		9	2	7
西				西			
		暗剣殺				暗剣殺	
北				北			

◆今月のチェックポイント！

今月は「七赤金星」が中宮となり、【実り】の卦象の影響により「成果物」について強く出る月です。「成果物」を得られるもの・見直す時期にあるものと、さまざまな状況があります。「成果物」は、決して良いものだけではありません。ただし今年には「六白金星」【天】の星に守護される年です。すべての状況を踏まえて、【天】の目を持ち、俯瞰して物事をとらえると良い改善策に気づくことでしょう。 **失敗は成功の元！？**

★今月のラッキーテストアイテム

七赤には「実り」「装飾」の特徴がある星です。みなさんは、いまのテスト業務で、どのような**成果物(実り)**を作成していますか？またそれはどのような**形(装飾)**をしていますか？もう一度、**見直す**ことで、**よりよい成果物**を作成しませんか？

今月のSTAR★

◆フォーマル・スター☆



こころなしに緊張気味のわれらがスター☆とあるパーティのひとつコマでした。

◆セクシー・スター☆



こちらにも真剣な眼差しで、かつシャツの一番上のボタンを開けて**ちょっぴりセクシーなスター☆**。

あまりにセクシーだったので掲載してみました(最近こなばっか)。

◆リラックス・スター☆



うってかわって、リラックスしているスター☆飲み屋さんでお話に夢中です。あまりにリラックスしたのでつい…



フニフニ〜

おもむろに顔面体操です。フォーマルなスターもかっこいいけど、やっぱりリラックス・スター☆がとってもチャーミングですね！

書いた人：コヤマン

お知らせ

10月31日(水)に WACATE-Magazine vol.43 発行します！(たぶん)
今回は「JaSST' 12 Hokkaido レポート！」かな？

来たれ！投稿戦士！

WACATE-Magazine では“ソフトウェアテストや品質に関する記事”を常に募集中です。
来たれ！投・稿・戦・士！！

WACATE-Magazine はボランティアベースで発行されています。したがって原稿料は出ません。※ノーギャラです。
投稿いただいた原稿の掲載可否、掲載時期については編集部で決定させていただきます。
特定の商用ツールやサポートなど営利色が強い原稿は原則として掲載いたしません。
レイアウトなどは全て編集部で行います。また、特に戻り確認などは行いません。
単なる論文は掲載しません。紙面の雰囲気を読んだ、イイ感じな文体や内容をお願いします。
公序良俗に反すると思われるものについても掲載しません。

以上を了解した上で、覚悟完了！な方は WACATE-Magazine 編集部「magazine@wacate.jp」まで、是非ご連絡ください。
折り返し、担当より要綱をご連絡いたします。
楽しい、そして役に立つ紙面にするため、是非ご協力いただければ幸いです♪

☆その他、WACATE-Magazine では以下の情報をお待ちしています☆

- 書籍情報(オススメ書籍情報も可)
 - イベント情報(ソフトウェア/品質/テスト関連)
 - 勉強会情報(ソフトウェア/品質/テスト関連ならなんでも)
 - オフ会情報(ソフトウェア/品質/テスト関連)
 - デザート情報(甘いものならなんでも。イカス！やつで。)
- などなど、お待ちしております♪



来たれ
次世代の
戦士達よ！！

WACATE実行委員募集中♪

★★★ WACATE 実行委員募集中 ★★★

編集後記

いのみん★JaSST ラッシュ。食欲ラッシュ。增量ラッシュ・・・(「ロ」；
ユエだ★WACATE2012 冬の開催が決定しましたね～
おたべ★富士山登ってきました！大雨で途中下山しましたが素晴らしい景色でしたよ！
コヤマン★まだまだ残暑が厳しいですが、そろそろ秋がやってきそうですね^^
ぼんぼん★イベント目白押しのお秋がやってきますね^^ばばた、
おらかみ★まだまだ暑い日が続いています。みなさんお身体ご自愛ください！

★あくづけ★

2012/09/11(tue)はっころ
WACATE-Magazine へんしゅうび
Magazine@wacate.jp
<http://wacate.jp/Magazine/>